

防災公開講座(しずおか防災地域連携第29回土曜セミナー)

平成 22 年 7 月 10 日(土) 10:30 から
静岡県地震防災センター ないふるホール

テーマ 「2010年2月28日チリ地震津波の際の避難行動調査の概要」
講師 牛山 素行 静岡大学 防災総合センター副所長

※ 聴講者数 100名



2010年2月28日のチリ地震津波に関するアンケート調査

静岡大学防災総合センター 准教授 牛山素行

1. 調査の背景・方法

・2010年2月28日に日本付近に到達した、チリ地震による津波の際の行動などに関し、津波警報が発表され、避難勧告も出された岩手県陸前高田市今泉地区、静岡県新居町向島地区、静岡県沼津市内浦地区、静岡県松崎町中心部の在住者を対象にアンケート調査を実施した。調査票は自治会を通じて配布し、今泉、新居では自治会を通じて回収、内浦、松崎では郵送回収した。配布は2010年3月下旬で、郵送回収分は同5月中旬に締め切った。配布、回収状況は次の通り。今泉:配布数507通、回収数469通、回収率92.5%。新居:配布数210通、回収数141通、回収率67.1%、内浦:487通、回収数195通、回収率40.0%、松崎:配布数262通、回収数103通、回収率39.3%。

2. 主な結果

- 津波警報を、発表直後に覚知した人が、必ずしも多くない。静岡3地区では半数以下。
- 何らかの形で避難行動をとった人が、5～6割。
- 居住地の津波災害に対する危険度については、静岡県3地区では、「危険」「やや危険」が9割以上
- 静岡県3地区では、津波災害「危険」「やや危険」の認知率に比べ、避難場所を「決めている」の率が低い
- 津波災害「危険」「やや危険」の認知率に比べ、浸水予測図の認知率が低い
- 津波警報や避難勧告で「すぐに避難する」率は5～6割
- 避難する津波予報の高さとして、「10m以上」という極端な回答が1～2割も存在する
- 津波の前兆として必ず海面低下があると考える人が7割前後

3. 素集計表等を収録した報告書

4地区結果概要スライド(土曜セミナー当日配付資料と同じもの)

<http://disaster-i.net/notes/20100710.pdf>

岩手県陸前高田市今泉地区報告書

<http://disaster-i.net/notes/20100228imaizumi.pdf>

静岡県沼津市内浦地区報告書

<http://disaster-i.net/notes/20100228uchiura.pdf>

静岡県松崎町松崎地区報告書

<http://disaster-i.net/notes/20100228matuzaki.pdf>

静岡県新居町向島地区報告書

<http://disaster-i.net/notes/20100228arai.pdf>